

報道機関各位

岩手県立大学ソフトウェア情報学部 「プロジェクト演習」全体発表会の開催について

岩手県立大学ソフトウェア情報学部（以下、「県立大学」）では、様々な地域課題を解決し、岩手の幸に貢献できる教育研究をめざしています。この一環として1～3年生の全員が受講する必修科目の中で、地域から提供された地域課題について日々の授業の中で学んでいる情報技術（ICT）を活用した解決案を考える授業「プロジェクト演習」を実施しており、これまで経済産業省「社会人基礎力を育成する授業30選」に選定されるなど、高い評価を受けています。

本授業の1月28日（水）の最終回を学生グループによる「全体発表会」として実施することにしましたので、ご案内いたします。

発表会では、80を超える学生グループによるポスター形式による発表が行われ、課題提供者を含め、20名以上の外部参加者から発表への評価・アドバイスをいただくことを通じ、「地域を学び、地域で学ぶ」ことを480名の学生が体験します。提案書と発表が優れているグループには、課題提供者から賞品も含めた表彰をしていただく予定です。

当日のご取材についてよろしく申し上げます。

記

1. 講義名：「プロジェクト演習」

1～3年生の学年混成グループで「ICTを活用し地域課題を解決する」プロジェクトに取り組み、問題解決案を提案する。

(1) 講義の詳細について：

別紙資料（1）参照

(2) 本年度の地域課題（各課題の詳細は別紙資料（2）参照）：

- ・スターティアラボ（株）提供「一部の人に熱狂的に受け入れられる020アプリの提案」
- ・（株）岩手ホテルアンドリゾート提供「岩手県の訪日外国人宿泊者数増加に導くシステムの提案」
- ・滝沢市提供「小規模高齢農家による農作業快適化を実現するシステムの提案」
- ・滝沢市提供「チャグチャグ馬コ観光を楽しくするシステムの提案」

2. 最終回「全体発表会」：

80グループ、480名以上が参加して各グループの提案を課題提供者、外部参加者、受講学生に対してポスター形式で発表。教員及び課題提供者による審査により各賞を決定。

(1) 日 時：平成 27 年 1 月 28 日（水）13:00～15:55（学生発表 13:10～14:50、表彰式・講評 15:00～15:40）

(2) 場 所：岩手県立大学体育棟アリーナ

<本件の問い合わせ先> 岩手県立大学ソフトウェア情報学部 准教授 後藤裕介
電話 019-694-2698 Email: y-goto@iwate-pu.ac.jp

プロジェクト演習について

1. 本演習の狙い

本演習では、社会におけるチームプロジェクトを体験することを主題とする。そのために、1～3年生の学年混成のチームを編成することが最大の特徴であり、学部生全員がこれを3年間経験する。このとき、学年ごとに主たる目標を変えることで、それぞれの立場におけるスキルを獲得し、経験を積むことを狙っている。

本演習においては、年齢や能力の異なるメンバーの集まりにおいて、根拠に基づいた問題発見・解決を推進し、自分の適性・能力に気づき、チームへの貢献のために自ら行動する、という目標を掲げている。

そのため、教員の役割は状況確認（および最低限のアドバイス）にとどめ、方向付けを行うような意見は出さないこととしている。学生たちは、チームごとに自分たちで議論を進め、宿題を設定し、それを基にまた議論をするサイクルを回すことで、成果発表会に向けた企画作りを行っていく。

本演習の取組は、経済産業省「社会人基礎力を育成する授業30選」に選ばれた（2014年2月）。

（ご参考）<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/kisoryoku30sen.html>

2. 学生の履修形態

学年ごとに主とする学習目標を設定し、3年間かけてチームプロジェクトにおける多様な立場を一通り経験する。3年間の継続的な演習によって、それぞれのスキルを自分のものにする。

研究室の異動などもあるため、同じメンバーで組むことが前提とはなっていない。担当者によっては、年度ごとに同じメンバー構成にならないように意図的にシャッフルするなどの工夫をしている。

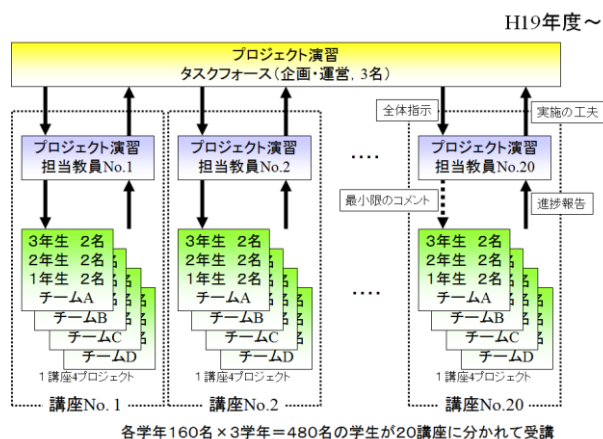
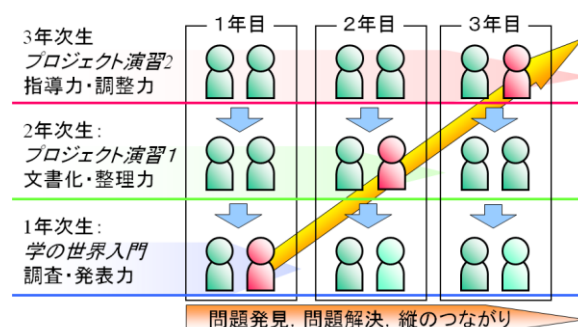
3. 実施体制

授業内容を設計し全体を統括するタスクフォースを中心に、各研究室における担当教員が授業を行う。各研究室で、数チームが構成され、全体では、70チーム超となる。

中間発表は、個々の研究室で行われるが、最終発表会は、全チームを集めて体育館にてポスター発表を実施する。



学年混成システム構成



<別紙資料 (2) >

テーマ A : 一部の人に熱狂的に受け入れられる O2O アプリの提案

スターティアラボ株式会社

課題の背景

現在、オンラインからオフラインへ誘導する、O2O (Online to Offline) マーケティングが注目されています。日本国内全業種の店舗からの消費は約 110 兆円。そのうち「インターネットからの情報収集に基づく消費」は、全体の 2 割、約 22 兆円あります。それに対して、オンラインで完結する E コマース (Amazon, 楽天など) の市場規模は、2 ケタ成長を続けながらも 7 兆 8000 億円に留まっています[1]。したがって、オンライン (インターネット) を用いてオフライン (実店舗) に効果的に誘導することで、より大きな成果を期待することができます。

本課題では、地域の「ある店舗」の悩みを解決することを目的とし、ターゲットのニーズ・特性を明確にしたうえで、オンラインおよびスマートフォンの特性を生かしたアプリの提案をお願いしたい。

提案の達成目標

- 目標 1 : 地域の「ある店舗」の悩みを解決し、貢献できるアプリの提案

副賞

- iTunes カード or Google Play カード (どちらか) 1 万円分 (チーム全員分)
- スターティアラボ株式会社開発担当役員&社員との食事会 (盛岡近郊を予定) 招待

テーマ B : 岩手県の訪日外国人宿泊者数増加に導くシステムの提案

岩手ホテル&リゾート 赤坂 勝

課題の背景

日本創生会議は、このまま地方からの人口流出が続くと若年女性が 2010 年から 2040 年までの 30 年間に 50%以下に減る市町村が 896 に上ることを報告した[1]。岩手県の人口流失阻止には観光産業振興が必要であり、また、人口減少に歯止めが効かぬ現状では、訪日外国人観光客増加は必須であり、経済波及効果と考えた場合、訪日外国人宿泊者増加は重要である。

2013 年の訪日外国人旅行者数は 1000 万人を突破し、2014 年も 7 月末現在で 753 万人に上り、前年を超す勢いであるが、東北 6 県の 2013 年外国人宿泊者数は被災前の 2010 年と比べ約 50%程度までの回復に留まる。岩手県の外国人宿泊者国籍統計は 2012 年全体で 50 千人泊であり、国籍別では台湾が 46.1%、香港が 12.6%を占める[2]。

以上から、岩手県の訪日外国人宿泊数増加を実現するために、訪日外国人の特性[3]をふまえて、対象とする訪日外国人像と訪日ニーズ及び訪問する地域・観光資源を明確にした上で、対象訪日外国人が抱える問題を解決するシステムの提案をお願いしたい。

提案の達成目標

- 目標 1 : 岩手県の訪日外国人宿泊者数を 2012 年度比 50%増加させる

副賞

ホテル安比グランド一泊宿泊券 (チーム全員分)

テーマ C：小規模高齢農家による農作業快適化を実現するシステムの提案

岩手県滝沢市

課題の背景

滝沢市の農家1戸あたりの生産農業所得は平成22年で157.4万円、10aあたりの生産農業所得は5.1万円と年々減少しており、農業従事者の平均年齢は、63.8歳で岩手県全体の66.3歳よりは低いものの全国平均の63.2歳よりも高い年齢になっています。このような背景の中、滝沢市の農家戸数は、平成12年1,146戸、平成17年1,072戸、平成22年1,028戸と年々減少傾向にあり、今後も減少が続く可能性があります。また、それに伴い、耕作放棄地の面積も上昇傾向にあり大きな課題となっています。滝沢市の農業特徴は、経営耕地面積2ha未満の農家が全体の6割を占めており小規模農家が多いことがあげられ、単一の作物を大量に生産するのではなく、多品目を少量ずつ生産していることがあげられます。また、盛岡市に近いこともあり、兼業農家が全体の82%を占めていることも特徴の一つとなっています。

小規模の農家では家族ですべての作業を行う必要があります、生産農業所得が低い中で多くの労働が必要となります。高齢化も進み、伝統的な技術に従って農作業が行われており、農作業の負担を減らせずにいることが大きな課題となっています。例えば、ビニルハウスで栽培している農家は、その時々天候でビニルハウスを自ら開け閉めしながら温度調整を行っている農家もあるなど外出が制限される問題もあります。これらの問題は、若者が農業へ従事しない大きな課題となっています。

提案の達成目標

- 目標1：滝沢市の小規模高齢農家の農作業における悩みを解決するシステムの提案がなされ、それが農作業の快適化に寄与すること

副賞

滝沢市の物産セット、図書カード

テーマ D：チャグチャグ馬コ観光を楽しむシステムの提案

岩手県滝沢市

課題の背景

チャグチャグ馬コは、昔端午の節句に農耕に疲れた愛馬を癒すために蒼前神社にお参りする風習が、幕末に小荷駄装束を着せて詣でる人が表れ今の原型ができたと言われていました。その後、昭和5年に秩父宮殿下がご来県された時に、その光景をお目につけようと八幡宮に集合させたのがパレードの始まりとなっています。平成十三年からは多くの方々ご覧いただき更には、出馬する方々も参加しやすいようにと6月の第2土曜日の開催となっています。

チャグチャグ馬コは農耕馬ではありますが、農作業が機械化された今日では、実際に農作業に携わっている馬コはほとんどなく、年々出場馬も少なくなり存続の危機にあります。一方で、貴重な伝統文化を継続させていくためにも、チャグチャグ馬コの伝統やその良さを広く伝えていきたいと考えています。チャグチャグ馬コは1年で1日だけのお祭りであり、また、行進行事という性質から祭りの会場が広い範囲に及ぶことから、観光客からは分り難いお祭りとなっており、蒼前神社などで案内をしたり、係留馬を設置したりしていますが、今年実施した観光者へのアンケートでは、「馬コの歴史を聞きたい。」、「馬コともっと触れ合いたい。」などの意見があり、観光客にチャグチャグ馬コの魅力が伝わっていないという課題が明らかになっています。

提案の達成目標

- 目標1：チャグチャグ馬コの観光が楽しくなるシステムの提案がなされる。

副賞

滝沢市の物産セット、図書カード